

素早いのはその方のみではない事である。
クイックタッチの方がもっと早かった。この故をもって彼がオールジャパン級の選手として活躍したのである。今ちょいちょい人制の全日本軍がやって居るのはセミクイックとあって称したやつである。本当のクイックタッチと云うのは彼のやったのである。その名の通り早かった。もう1度彼にクイックのトスをあげたいものだ。

○イネこと 数井

とにかくバレーの虫である。決してめぐまれた体格の持主でないにも拘らず兵庫クラブで、交通局でアタッカーとしてあれ位長く活躍出来たのは本当にバレーが好きだったからであろう。

又彼の天分は誰とでも知合になり誰とでもすぐ親しくなる事である。これは男性に対してもそうであるが対女性になるとこの天分は益々発揮される。高校時代からすでに百貨店めぐりと称するものをしてバレーガールをして居た。そしてその戦果が常に相当なものであったと云うから大したものである。卒業後は大阪のダンスホールにまでその行動半径を広げて居た。この開拓者精神が彼の身上かも知れない。今は自立して仕事を始めて居る様だがこのフロンティアスピリットがなくならぬ限り大丈夫であろう。

どうも小生のチームメイトはこうしてみればモテモテの奴ばかりの様だがモテるのにはバレーが下手くそでは駄目なのだと云う事を

良く理解して貰い度い。ガールハントに成功してバレーボールをやって居ると云えば彼女は必ず試合を見に来るだろう。この時下手くそだったり補欠だったりすれば恰好がつかないではないか。彼等はそうなっても大丈夫な位バレーボールが上手だったのだ。そして人気選手であったのだ。若手OB諸君女にもてる位バレーが上手にならねば駄目ですよ。

—永田 章—

○吉川、宇野、田中基、田中昌、浜地、三島、八木(小倉) (お互に全員まじめであったという回答しか得られず、語りようがない)

練習はきびしかったが、終ればアホなことを言い合って大いに笑ったものだ。皆気のいい愉快な者ばかりだった —浜地—

○田中俊・松本健 いずれも180cmを越す長身に恵まれ、デカ・オンチの渾名で知られる名コンビ。新開地東方の某所では奇しくも隣り部屋になるという因縁話がある。

○吉川満・斉藤 楽道家と気難し屋、早くから東京、界と分れて住むが、若さにまかせて東京猟奇地帯を探検しつくしたというこれもチームメイトの本格派。

○吉田 スタミナに恵まれ、何事にも勤勉、練習の為にデートを断るなどということは絶対にしなかった。練習の方は家業の手伝いという大義名分がありいつでもサボれた。

社会人となってから兵庫クラブに入れてもらうべく、数ヶ月のトレーニングを行なう等は正にそのスタミナあるが故の真面目さに外な

らない。麻雀もこの頃はカモではなくなった。要領と勤勉を兼ね備えた堅実派人物

○森本栄一 星陵衰頹の一時期を1人で背負って立っていたといえる。運動委員長として強引にバレー部の予算を増額し、亦先登からの寄附集めに才腕を発揮す。とにかく超人的スタミナからくるファイトは未だ衰えず、圧倒されない人はいないだろう。

○稲葉順一 現役の頃からスタイリストとして有名、現在も野田高チームのコーチとして、その白い手袋は広く高校界に知られている。

○大木節雄 星陵クラブまれにみる優雅な人物。東京言葉を話し、関学の時計台に魅せられ進学、関学グリークラブで活躍す。

○楠田 いつの正月だったか久しぶりに神戸に帰り、彼の家で御ちそうになった。

適度にアルコールが入ったところで、彼、客をそっこのけにして高いびきをかき始めた。人物である。 —島田—

○円藤 とにかく女性にもてる。こちらがバカらしくなる。 —島田—

○藤岡、大久保、塚本 皆立派な社会人になっておられますのに、自分は未だに芽ができません。立派な方ばかりです。

—中島—

○大久保 小倉氏・大木氏・島田氏の流れをくむ正統派マジメ人間。現在期待される人間像として教科書にのる話もあるとか……

—藤岡—

○中島正人 今年の冬の骨折で若見山の足と明武谷の足を持つが如く、太い細いになって

いる。早く直って欲しい。先年塩原女子高校を有数の強豪チームに仕立て上げた。

ニコリ笑った顔が可愛いと自負するが、他人から言われたことはないらしい。

—藤岡—

○塚本秀男 有名な塚本兄弟の片割れ、時代の先端を行く電子計算機の知識では社内で右に出るものはないと言われる(もっとも彼は部屋の一番右はしに居る)高校時代から今までの練習量は有数で、従来の豪球サーブに加えてアタックをマスターしつつあり。行くところ可ならざるものなしの感あり。達筆でも有名で今道風といわれる。

—藤岡—

○柿沼 チラリズムの元祖、カンニングの名人。

—山崎—

○山口 珍空切りの名人、へのようなキラキ。

—山崎—

○塚本雅男 一見まじめ、Y談が大好き、ガメツクもうける人。

—山崎—



会 員 一 覧

(附・近況報告その他)

- ① 現住所(電話) ② 勤務先(電話) ③ 仕事に関する近況報告
④ 私生活に関する近況報告 ⑤ 最近の身長・体重・コンディション

二 回 生(昭和25年卒業)

小林 二郎

- ① 東京都葛飾区東立石町3-29-14
オ二紫雲荘内
- ② 三ツ星ベルトK・K・東京支社
(764-4821)
- ③ 非営業関係の仕事の為毎日電話と伝票に取組んでいます。残業が多く、暇が少ないので困ります。
- ④ 戦後14回目の引越で現住所にいます。八月にはオ一子誕生の予定で当分は当地にいる積りです(編集部注・オ1子はお嬢さんでした。)卒業後5年程はボールに親しんでいたけれども、この10年程は御無沙汰しています。往年のバレー狂も仲間がなくては何せん。
- ⑤ 160cm 57kg

井上 幸三

- ① 須磨区太田町6丁目14
- ② ゴム製品検査協会兵庫検査所
総務係長 (69-6405 代)
- ③ 金の計算ばかりしている。
- ④ 子供にバレーをしこむ予定。

⑤ 172cm 80kg 普通

稲垣

三 回 生(昭和26年卒業)

永田 章

- ① 明石市太寺町3丁目3326
(078-912-5458)
- ② 兵庫日産自動車K・K
業務部次長 (23-3821)
- ③ 部品に入り中古車で査定と販売を5年間やって今年3月に業務部になった。
仕事の内容は車輛引当登録受渡架装と多様であるが、それぞれ4人の課長がやって呉れるので中古車時代よりは楽である。但しすぐ上が常務でこれが神戸一中のラグビー部OBで相当にきつい。それと頭の痛いのが本社からの引取で台数車種色を2ヶ月前に発注する。これが競馬の予想と同じ位難しくあてがはずれて思わぬ色が多く出たりして困る。2ヶ月前の一般の人の好む色が予想出来る人があれば教えて欲しい。
この雑誌の出る頃はモデルチェンジをしたブルーバードが全国をかけめぐって居る

だろう。その為今は余計にいそがしい。

皆さんも日産車を御愛用下さい。中古車になって値が宜しい。5年間査定をして居た人間が云うのだから間違いはない。

- ④ 結婚後海老原から永田へ姓の変ったのは御承知の通り。現在長男、次男と2人の親、女房が確かり者なので家の事はまかせっ切りで居られるのが有難い。
- ⑤ 170cm 75kg

柏木 周

- ① 須磨区天神町1丁目46
- ② K・K・三冷社営業二課
(06-771-3731~3)

教井 省三

- ① 須磨区戎町4丁目1 (71-8938)
- ② 自営・電気配線工事

谷本 好隆

- ① 須磨区西寺田町7 ^{東田3丁目1-10} (71-8483)
- ② 電電公社近畿電気通信局
オ二建築部 (06-442-2713)
- ④ 40年5月長男を亡くしました。
- ⑤ 176cm 75kg(推定)
兵庫県バレーボール協会理事
電電近畿通信局バレー部監督

四 回 生(昭和27年卒業)

八木 弘

- ① 明石市大久保町西島 (②に同じ)

- ② K・K・ハリマネジ工業所
二見(07894-b-0181)
(江井ヶ島 302,338)

- ③ 経理関係事務
- ④ 妻及び長男、3人家族でこじんまりと日常生活
- ⑤ 177cm 59.5kg 余り良好といえぬ。

浜地 克己

- ① 姫路市伊伝居馬場先17-8
三菱銀行姫路寮 (~~23-2587~~)
⁽⁰⁶⁾²⁶¹⁻⁰⁰⁷¹
- ② 三菱銀行姫路支店 (~~23-3641-5~~)
- ③ 預金の窓口で座って毎日多数のお客と接している。姫路へ来て4年半そろそろ転勤になるのではないかと考えている。
- ④ 自宅のことだが約15年間住んでいた山本通りを離れて葺合区野崎通りに1年住み、去年の9月に尼崎市武庫の荘に転宅した。尼崎市常吉字大泥7の8
- ⑤ 164cm 52kg

宇野 一成

- ① 西宮市枝川町31-1
公団住宅 114-102
- ② タツタ電線K・K 営業部販売オ二課係長 (06-721-3331)
- ③ 主に関西地区の電力、電工、造船、鉄鋼メーカーへの販売活動
- ④ 妻美美子(29才)長女千春(4才)
長男秀也(2才)の4人家族、長女千春今年度より幼稚園へ入園、家庭円満、当

方多産系であるが以后生産?なしの予定。

- ⑤ 172cm 60kg 良好
タツタ電線バレー部監督 たまに試合にも出る。まだまだできる。

三島 泰治

- ① 須磨区^寺平田町¹丁目2番
- ② 三井倉庫神戸支店(22-4131)

田中 昌憲

- ① 明石市舟上大道町192-1
- ② ~~飯塚~~飯塚材木大協(87-2332)

田中 基義

- ① 明石市小久保120-27
- ② 神戸工作所明石工場 工場長
代理 (078-913-3838)

吉川 甲子次郎

- ② 大阪断熱K・K
大阪市北区与力町2の4
(06-351-2670)

五回生(昭和28年卒業)

田中 俊弘

- ① 垂水区塩屋町滝ヶ平
- ② 兵庫相互銀行^{垂水}加古川支店 27-0155

松本 健嗣

- ① 垂水区南多聞台7丁目6
県営明舞鉄筋住宅354号
- ② 日石カルテックス三宮給油所
(22-7701)

- ③ 外交
- ④ 昭和38年4月10日に結婚

40年7月20日長男生る。

名は誠と言う。42年4月現住所となる。

- ⑤ 182cm 68kg 良くも悪くもない。

六回生(昭和29年卒業)

齊藤 進

- ①
- ② 堺市役所、水道料金課

吉川 満

- ①
- ② 大阪断熱K・K 東京営業所
東京都新宿区三栄町18
(351-1284)

- ③ 所長

七回生(昭和30年卒業)

吉田 功

- ① 長田区花山町1-15
- ② 東京ラセン管関西出張所
(39-0597-0231)

- ③ 西は長崎、東は東京までよく出張します。
佐世保のアナ場伝授します。

- ④ 妻、長男と併せて3人家族
チエームス山に土地を求め、地主になりました。休日は大抵釣りに出かけます。

- ⑤ コンデション良好 但しトレーニング不足
を感ずる。

武谷 和夫

- ① 垂水区塩屋町滝ヶ谷29の94
(77-1423)
- ② オーション運動具店 (33-7683)

- ③ おみかけどうり。よく御存じの筈。

- ④ 独身なれど家を建てた。1人者でもマイホームと呼ぶのだろうか?

- ⑤ 168cm 57kg
心身共にやや消耗。

八回生(昭和31年卒業)

野並 義秀

牧 陸郎

- ② 十合百貨店外商部 (22-4181)
増田 嘉郎

- ① 垂水区名谷町1579

- ② 農業
田代(二股)勲

九回生(昭和32年卒業)

谷垣 昌男

- ① 垂水区東垂水町王居殿84号
(078-77-4224)

- ② 神戸銀行三宮支店 (38-2221)

- ③ 夏はネクタイをして、冬はオーバーを着ないで、街から街へと顧客廻りの毎日

- ④ 両親、妻あり。釣をやっています。

- ⑤ 大病を患いましたが現在良好
野間 一順

死亡

十回生(昭和33年卒業)

稲葉 順一

- ① 垂水区西垂水町瑞ヶ丘964-10
(77-0358)

- ② 商業 (39-2490)

- ③ 「いらっしゃいませ」「はいどうぞ」「ありがとうございました」の文部省推選営業の連続のあけくれた。

- ④

- ⑤ 168cm 68kg 良
森本 栄一

- ① 明石市藤江字川上834-11

- ② 神戸いすゞ自動車K・K
営業部係長 (23-4121)

- ③ 淡路島セールス(大型トラック)

- ④ 40年11月結婚 42年5月パパとなる。

- ⑤ 170cm 82kg 最良

原 一行

- ① 垂水区舞子町川西2237

- ② 郡是産業神戸支店 (33-7161)

- ③ 月の半分は北陸へ出張しています。

大木 節雄

十一回生(昭和34年卒業)

松本 宗興

- ① 長田区松野通り4丁目137

- ② 三菱電機伊丹製作所購売課
(06-481-8021)

若林 寿郎

- ① 垂水区東垂水町前田佐津満荘12号

- ② 大阪屋書籍神戸支店(51-4421)

- ③ 最近迄神戸大丸の書籍部へ出張店員でいっ
ていました。楠田、藤岡両君にはいつも御
ヒーク頂きました。楠田君は今の新開地
の支店へ移ってからずっと卸値で買いに

きてくれます。

- ④ 42年4月結婚し今の住所に新居をもちました。

北村 淳

十二回生(昭和35年卒業)

楠田 良輔

- ① 須磨区須磨本町1丁目(呼71-0908)
- ② 三井倉庫神戸支店海上営業課 (22-4131)
- ③ 船内荷役料計算、請求書作成
- ④ 満25才 独身
- ⑤ 172cm 63kg 良好

島田 勝和

- ① 東京都豊島区目白4丁目22-6
日本ダンロップ目白寮 (953-0016)
- ② 住友ゴム工業(株)技術サービス課
東京駐在員 (584-0111)
- ③ 自動車タイヤの性能、品質調査、バス会社、トラック会社、タクシー会社、変わったところでダンプ屋から自動車レース場、それにカーデイラー等およそカーに関係あるところを訪門して上記業務をやる。
- ④ 目下独身寮でチョンガーならではの生活を enjoy している。ついさっきもとなりの住人ドアをたたいていわく「酒はないか?」給料前である。
- ⑤ 171cm 60kg まずまず

円藤 清

- ① 垂水区舞子町戎の町836

- ② 阪東調帯 K・K ベルト工業用品総部、業務部才三業務課 (67-5031)
- ③ 交換嬢に円藤清と言えば真直に通ずる。ベルトも業務も才三課も関係ない。

十三回生(昭和36年卒業)

藤岡 義典

- ① 垂水区日向町2丁目2の14 (078-77-3771)
- ② 同和火災海上保険(株)尼崎出張所 (481-3877, 1518)
- ③ 41年4月神戸より転勤、営業全般ということで代理店、得意先、銀行等をまわって火災保険、新種保険、自動車保険の販売に務めています。東は寝屋川、北は川西、宝塚、西は神戸が縄ばりて毎日風の吹くまま気のむくままに、フラリフラリと浄草稼業です。
- ④ 両親と3人、平々凡々たる生活です。
- ⑤ 166cm 60kg 可もなく不可もなし

中島 正人

- ① 垂水区海岸通り1の23 (77-8669)
- ② (株)大野社 (55-7431~3)
- ③ 時代の先端をいくテフロン(フッ素樹脂)使用のバックングを製造し、現在は現場で仕事してます。
- ④ 両親、兄弟5人家族の長男
- ⑤ 170cm 70kg

大久保 忠一

- ① 垂水区西舞子町792
- ② 神戸銀行本店 経理部 (33-8101 大代表)

塚本 秀男

- ① 須磨区天神町5丁目23の1
- ② 阪東調帯経理部機械計算課 (67-5031)
- ③ 時代の最先端をいく電子計算機を導入するための準備や、資料作りに、毎月200時間を越す残業を半年続けました。
- ⑤ 170cm 60kg 良

十四回生(昭和37年卒業)

柿沼 讓太

明治大学法学部を卒業し、阪神高速道路公団に就職の予定
大学ではフランス文化研究会に所属し、合宿でB・B研究を行なう。

山口 竜雄

- ① 長田区大谷町3丁目116 (62-1449)
- ② 関西大学法学部を卒業し、泉化成産業(株)に就職決定
- 山崎 典雄
- ① 長田区山下町2-6
- ② 大東京火災海上保険(株)姫路出張所 (注:現在、岡山出張所開設の為岡山へ転勤している)
- ③ 37年入社、すぐ神戸支店にバラまかれたが、悪いことばかりしておりましたので、

1年後には姫路出張所開設されるに当り、放り出されました。

出張所は現在4名でいつも所長ににらまれており、うまいことさぼる方法を毎日考えております。会社というものはドケチでんな。

- ④ 5人家族、現在妹が星陵3年でへたなバレーをします。(これは遺伝)。弟はもう社会人1年生で、神戸信用金庫にさぼらんと行ってます。おやじは相かわらず腹がいたいといいながら酒をのんでいます。おふくろは不幸な子をもったといつもなげいています。マッチ箱みたいな家に5人も大人がおるとほんまにややこしおます。ええ家安う買えまへんやろか。私はおかげでしがない下宿ぐらし(2食付6,000円安い)

- ⑤ 164cm 53kg 良

塚本 雅男

- ① 秀男兄と同じ
- ② 山一投資信託K・K (33-7961)

十五回生(昭和38年卒業)

今井 忠

- ① 垂水区舞子町西舞子町西舞子狩口4
東京都中野区新井1丁目10-13
むさしの荘内
- ② 日本大学文理学部体育学科
- ③ 体育の理論及び実技を学習している。
- ⑤ 176cm 63kg 普通

小野 徹太郎

- ① 垂水区舞子町狩口6
- ② 桃山学院大学4年生
- ③ 就職に備え毎日暇なし。
(注: 42年4月より大阪トヨタ自動車に勤務しているとのこと)
- ④ 生活環境、居心地満点
- ⑤ 165cm 60kg 良

三宅 二郎

- ① 伊丹市伊丹字西の町509の3
(72-2131)
- ② 関西大学卒業し、池田銀行大阪支店に就職

十六回生(昭和39年卒業)

森本 善之

- ① 長田区大塚町9丁目1の3
(61-9376)
- ② 大阪経済大学
- ③ 同じ町内ですが家が変わりました。
- ⑤ 165cm 56kg 良好

畠山 耕作

- ① 須磨区大手町2丁目3
- ② 安田信託銀行神戸支店
(33-1626)

服部 要

- ① 長田区御影町西平野字平野1-1
平野荘2号

② 神戸大丸 婦人服地売場
(33-8121)

笠原 正夫

- ① 葦合区籠池通7丁目4 兼松寮
(22-0809)
- ② 関西大学文学部

十七回生(昭和40年卒業)

松山 誠二

- ① 垂水区西垂水町旭ヶ丘
長野県東筑摩郡本郷村横田158
黒河内 方
- ② 信州大学人文学部経済学科

十八回生(昭和41年卒業)

平井 敬三郎
敬三郎

- ① 長田区大塚町8丁目19
(69-9125)
 - ② 中央大学法学部
- 酒井 憲治
- ① 長田区御屋敷通1丁目2の84
 - ② トヨタパブリカ神戸 経理部
(86-8881)

小池 武司

- ① 長田区西代通2丁目79
- ② 共進株式会社新港事務所

伊藤 博夫

- 長谷川 俊郎
- ① 長田区若林町3丁目88
(61-4422)
 - ② 大阪経済大学

監督日記

我が心としては
11-17しが高がね

ここに昭和33年10月より1年間現役の監督であった永田章氏の日記の一部を紹介します。これを読んで感ずることは単に一監督の日誌というだけのものではなく、OBが現役の指導をするということは、一般にコーチがプレーヤーを指導するというだけではない何かがあるということです。亦、星陵の場合に限って言えば現役が県下で優勝することに対してOBが持つ執念のようなものを感じます。ただのコーチに成り切ってしまうようなことでもOBであるがために悩みとなる。現役をコーチするOBは誰しも感ずることではないでしょうか。コーチとプレーヤーの間に通うもの以上の何ものかがあり、亦ありたいと思うことのために、却ってそれが障害になる場合さえ考えられる訳です。ついでに言うならば、その障害を乗り越えたところに星陵クラブがあると言えるのではないのでしょうか。ただバレーが好きな者が集ってチームを作っているというだけでない何物かがある筈です。

この日記は全部通して読んで初めて値打のあるものだと思いますが、編集及び予算の都合上割愛させていただいたことをお詫びすると共に残念に思います。是非この永田日記の総てを通読する機会をお待ちになるよう特に若手OB諸君に希望します。

(編集子)

◎ 9月 星陵高校男子バレーボール部監督を引受けて以来何等かの形で記録をとる思いつつも、つい延引するに到ったが、本昭和33年10月29日より毎日凡ゆる記録をして感想を記し、折あらば現役諸君の参考に資すると共に、小生万止むを得ず監督辞任の折には次期監督に何等かの御役に立ち得ればと思いを記録していく事にする。

昭和33年10月29日

星陵高校男子バレー部監督 永田 章

◎ 監督就任所感

二度とやるまいと思つて居た監督を又厚顔にも自ら買って出たと云う事は誠に我々人間心の不可思議さと云うものについてしみじみと考えざるを得ない。思えば昭和25年秋の国体予選優勝戦にてフルセットの末竜野高校に30:32と云うスコアで負けた時の口惜しさは今考えてもムカッ腹が立つ。全くあれは8年経った今考えても残念であるんだから、当時試合後1週間ばかり夜になればあの時ああすれば、こうすれば、21:19位で勝つて居たのにと考え、眠れなかったのも無理はない。そして商大進学という便もあつた事と、我々の手で出来なかつた優勝をと若さの到す処吉川を主将とする1年後輩の面倒を見ようと思つたのであるが、何せ商大でプレーヤーとしてもやらねばならなかつたり、面倒を見ると云う如きものでなく、自分も一員として何とか竜野を倒そうとそればかりであつた。そして竜野打倒は成つたが、も早以前の竜野ではなく、それは優勝に関係なく伏兵長田高にオールジャパンで敗れさせた事は残念であつた。吉川等のチームは今考えてみれば、我々が3年生の時のチームより充実して居たのではないかと思う。ともすれば安定度のなかつた我々の時よりは比較にならぬ程の安定度があつた。そしてあのサーヴ力を有するチームは現在まで見当らなかつた。事サーヴに関しては現在までの総てのチーム(大学、一般を含めて)より勝つて居たと信じて居る。然し彼等も優勝させ得なかつた事は全く自分としても残念であつた。凡ゆる先輩連の非難を受けて監督を退いた事は今考えても感無量である。自分のプレーすら怪しくなつて来たものだ。その苦い経験を持ち乍ら今又ノコノコと出てくるとは全く鉄面皮である。先輩諸兄よ!! これも一度で良い優勝をとの小生の願望の強さ故と寛容に許して呉れ給え。然し監督なるものは全く辛いものである。良い時はなく悪い時ばかりの様に思われる。こんなものは余程の優勝への執着心がなければ出来るものでない。然も小生にして尙若すぎると思う次才である。そして現在のプレーヤーが吉川等の時の比でなく、全く拙いと来ては……だが育てねばなるまい。あせらず目標は亜流となるかも知れないが、フェイントプレー、現在の体格のプレーヤーでは1年間はこので行くより仕方があるまい。そしてモットーを紳士的たれと決める。小林先輩のあせるなを座右の銘として何とか優勝させる。

◎ 33年10月29日 晴

2年生修学旅行中の為1年生のみの練習 8名
藤岡、両中島、塚本、定永、大久保、明山、松下

Back練習を主とするも、全く悪く、動きの悪い事表現の仕様なし。動きの良くなる効果的練習法がないものか悩む。

Attackは、明山君、稍良好になるも未だタイミング合わず。これはあせらずとも良さそうである。それにひきかえ藤岡君大いに悪し。彼のスイングは修正途中に於て肩を痛める恐れ多分にあるもの故難しい。然しここで決定的に決め得るものでなければ時間差攻撃が意味を為さなくなるので何とか来週の試合迄には調子を取り戻して貰わねば困る。サーヴは比較的全員好調。明山君のみ明日フォーム是正。

来週の試合の方針は一発目H・R・次のchance ballを前衛で決めて行く策戦を取る事とする。

全員fightなく何とも淋しい練習になった事を残念に思う。

開始 3時50分 終了 5時30分

◎ 33年10月30日 雨

午後より雨が降つて来た為練習参加せず。監督として甚だ不熱心であると自省するも、体育館をバスケット、フェンシング、バドミントン等の男女チームと併用しての練習は小生として堪えられない。全く練習になつていないのであるから却つて練習を休む位の方がましなのかも知れない。現役諸君は本日も練習を狭い場所で行なつて居るだろう。許せ。

暇ありて St. Louis Cardinals VS All Japan のラジオ放送を聞く。

7:2の完敗、小西得郎氏の解説にて彼我の差は基本プレーを着実にやるか否かであるとの言は全くsportsmanとして銘すべき事であるし、All Japanにしてもそれを怠れば駄目であると云う事は全く感すべき事である。

これよりして明日より今一度基本プレーの練習をやらねばなるまい。特にBackに於ては半身に開きながらするバック。頭上少し高目のボールのジャンプパス。特にBackはPositionを固定し、横のcombinationを考えねばなるまい。

◎ 33年11月2日 曇時々雨

先輩諸兄多数の参加を得、浜地、吉川、宇野、吉田、武谷、稲葉、森本、谷垣、小倉の諸氏、連休にて何かと繁忙であると思つて居つたにも拘らず、小生如き者でも顔を立ててやって来て呉れる熱心さは、何事にも増して嬉しく大いに有難く思う。

練習後、試合を行なうが、島田君不参加の為実益上らず。但し中島君、B・C・案は成功にて小倉

当時の毎日

君の猛キルを再三再四 Receive せる事に依っても明白。但し次の Ball の利用法が甚だ拙い事は一考を要する。

練習後吉川君久方振りの帰神の為、彼の家にて meeting、浜地、宇野、小生、田中(昌)参加。現役諸君の日誌を読み、部の推移を知る事が出来た事は大いにプラス。日誌にて体育教師とのいざこざが以前あったらしき事を知り、最近の横やりはこの辺りより出て居るかも知れずと思い、前記四先聲と善後策を考える。

明日今一度最終的方針を決定する予定なるも一応沖に依頼し、森本先生を通じ先聲団との話合の会を持ち、良き協力を得るべく依頼、しかし話合決裂の場合は校長に直接先聲団よりあつせん

の勞を取られるべし策を講ずる事とする。尚、本日先聲諸兄に普断の日に極力激励文の手紙を出されるべく依頼して置く。もし実行して呉れれば、現役の士気大いにあがるのではないかと思う。

◎ 33年11月9日

昨日に引き続き新入リーグ戦。塚本盲腸炎にて入院加療の由、先聲、小倉、宇野、原、吉田、諸兄応援、武谷より来電あり。

本日は灘、葦合との2試合、完勝、但し攻撃された時にまだ弱点あるのと Back の拙さ(カバー)は目だつ。

大体本日の出来は相手の弱さを計算に入れても従来と比すれば格段の進歩にて大体チームとしてまとまりを得て来た感じ。今少し全般に力強くなれば満点に近い。コートマナーもおおむね良好、小生としては何も知らなかった頃より見て居るので大いにほめてやりたかったし、又、礼も云いたかったが、勝ったとは云えまだ三部である事だし、まん心してもいけないので余りほめず、現役諸君よ、この小生の辛い気持ちかが分って呉れるかな？

スコアー

星陵 { 21-11 } 須磨
 { 21-3 }
 { 21-4 } 夢の台
 { 21-5 }
 { 21-13 } 灘
 { 21-10 }

星陵 { 21-8 } 葦合
 { 21-9 }
今後の目標 力強さ
 ミスの減少
 バック要員の完成

◎ 33年11月24日 晴

本日練習休み。オーヴァーワークにならぬ様にと休みにするが、充分休養して居るかどうか…… 先日は試合、練習と相当実働量が多かったので、明日も練習を軽くして、出来れば meeting を持つ様にし度いと思う。一日色々 Attack の事等考えてみるが、矢張最後の Point を得る為に時間差戦法を完成する必要があると感ずる。その為には何としても楠田君のトスの絶対的确实性、藤岡君の Attack form の是正をやり通さねばならない。この両方の事については、小生は今迄稍甘かった様に考える。幸いに両君とも素直な性格であるので多少苦しくてもやって呉れると思う。今週の主たる練習目標は矢張 Back に置かねばならないが、試合もある事故、毎日それぞれ重点を置き替えた練習を計画通りに行なう事とする。

火曜日 Back Receive, Second Serve Receive

水曜日 Back Three men Second Serve Receive 又は Rest

木曜日 Forward Attack(Combinationに重点) 1st Serve Receive

金曜日 Half Attack(当たりをつける) 1st Serve Receive

土曜日 総仕上げ Second Serve Receive に重点

◎ 33年12月23日 雨

練習も後僅かになって来たので部室の整頓を行なわせる。壁に紙を張らせたので案外長時間を要し、練習は行い得ず。然しこうする事に依り、部としての誇りを得れば一日位の練習よりは勝るものかも知れない。下校時明山君より退部の意向を聞く、本人の意思か家庭的な問題か明確ではなかったが来年からの事もあるので早く明かにして何れになってもはっきり決めて置かねばならぬと思う。脱落者を救いつつ進めて行くか、整理さるべき者は整理してやって行くか問題であるが、現在の人数では何とも困難な問題である。小生としては例え小人数であっても本当にやる気のある者のみにてやり度いが、それも所詮は無理な事か？

◎ 34年2月1日 晴 比較的暖かし

本日は珠算試験の為練習が休みなので藤岡君と2人で練習を行なう。小林さんが小生にやって呉れた事を今後聲にやることになり、初めて時の移って居る事を痛切に感ずる。今日の練習では Attack の面では余り効果があったとは云えないが、トス、ネットプレーでは可成彼も得る処があったのではないかと思う。又小生にとっては現役の前衛諸君がネットプレー前衛攻撃のテンポ等については全然出来ず、又分って居ない事を改めて知り得た事は何にも増し

てプラスであったと思う。

2人だけで2時間余りやったので小生は昨夜の不眠も手伝って相当に疲労した。帰途藤岡君我が家に呼び、商大受験の為の問題集等を与える。

明日は矢張り何としてもmeetingを行なわねばなるまい。議題大体以下の如きものか。

① 退部者と小生の責任問題の件

② 練習計画の件

③ ④ Backmonの自覚 ⑤ 練習時間の少い事より合理的な時間利用

⑥ ⑦より朝のサーブ練習依頼討論

⑧ 個人的会談

⑨ 円藤利己心の除去、3月迄はBack指導等として責任を持たせる。

⑩ 前衛 規定時間の練習以外の練習実施

島田君、Slump時の心得、 楠田君自覚

◎ 34年2月2日 雨

大久保、 両君見学、西君休み、先輩武谷君参加

武谷君試験にて会社を休んで居るとして参加して呉れる。明日より試験であるにも拘らず、登校して呉れる熱意に感激す。又それだけに退部者の件を話す辛さは耐え難いものであった。誠に済まないと思う。

本日はmeetingを行なう予定なるも現役諸君の不熱意が何かしら感じられ、とてもやる気がせず見送る。各個にはそれぞれ相当な熱意があるとは思のだが、それが結局チーム全体として盛り上らない為に誠に空虚なものとなり、それが何か皮膚全体より感じられる様であった。これは数日前よりあったが特に本日に到って甚だしく、又2日間も休みがあった事よりしても全く納得が行かない現象である。何かしら面白くない空気がある様だ。これでは戦力の低下した現在とても勝利は望めない。

小生の考えとしては、次の日曜日に先輩団に退部者の件で小生の責を問い不信任強ければ身を引き、もし不信任、信任の数が接近すれば不信任者には戦力を低下させた責任として、これを何とか強くする義務ある事を説き、充分納得させて引続き優勝を目指すべく努力すると云う線に持って行こうと考えて居たが、現在の選手諸君の気持ちでは、小生如何に頑張れども結局は全員が空廻りに終り、又とても優勝は不可能である。然らばそれは当然先輩団に対する違約ともなる故、どうしても不信任と云う事にして貰い、身を引く事とする。戦力が低下し、然も人間が少くなれ

ば練習量を2倍、3倍に増して漸し以前と同等の戦力、ましては以前より以上の戦力にする為にはどの程度の熱意、どの程度の練習量を持つべきか？これが分からないのでは早致し方ない。然もこの様な事は今更彼等に説くべき問題でもあるまい。小生と共に約5ヶ月一緒にやれば、も早分って居る筈であるし、又バレーを真剣に考えれば分らねばならない根本問題である。分り乍ら出来ない。これでは何をか云わんやである。

自分の現役の頃、然も商大時代1年生の頃を考えてみて矢張り上に立って引っ張って行く立場、それと下にあつて練習する立場では相当な違いがあり、バレーに対する熱意はあり乍ら無意識的に休みを喜ぶ気持ち、短時間の練習を願う気持ちが出て来ると云う事は分らないではない。然しそれは部の状態が平常の状態にある時の話で、この様な時には一寸した刺戟、その他でそれを是正して行けばそれでよい。だが現在の我部はそうではない。レギュラー中4人が退部するのである。こんな時に現在の様な気持ちで居られてはたまつたものでない。下手をすれば部としての存在が危くなる。現在の様な事態になれば誰でもよし去るものは去れ!!残つた者で意地からでも石にかじりついてやるぞ。と思うのが普通ではなからうか。その気運が全然見られないのは結局何だかんだと云つてみても彼等は退部して行った人間達と似通つた精神的な弱さ、又根本的に誤つたものの見方、責任感のなさがある故ではなからうか。

これは矢張り教育、長い間過去9~10年間彼等が受けて来た新制度の教育の為せるわざであるまいか。合理的、民主的、自由なと云つたヴェールにつつまれた、その実は全く誤つた物の見方、総てこの辺りにより起因して居るのではないかと思える。そう考えてみれば強かつた時代、2年間位の選手は旧制中学の経験者で占められていた事も思い併される。尤もこれは矢張個人的な差がある様ではあるが……

武谷君の本日の意見ではとにかく先輩団として今後は総ての面でノータッチにしてはどうかと云う事。これも少し極論のようであるが、小生としては武谷君如き温和しい人物ですらこういうのかと思ひ、少し心配になる。矢張り小生が辞めるにしても一応現役諸君に一度最後に猛省を促して置く事が必要の様でもある。

何れにせよこれは小生にとつても充分考えねばならぬ事、熟慮断行と云う言もある。今週は登校せず、もう3、4日慎重に考えると共に小林さんにも手紙で相談し、同時に退部者の件の御詫びを云つて置かねばなるまい。

◎ 34年2月3日 曇 練習休み

色々考えるが種々な考え方が出て来てどうもまとまらない。とにかく最も知り度い事は、現

在の人間がやる気があるのかどうか。又やる気があってもそれがどの程度なのか。又、小生の方針に対する考え方はどうなのか？

これを充分知らなければ駄目の様である。

自分の方針を、又やって来た事を客観的に考えてみる必要もある。主観的なものが甚だ多かった事は否めない。小生としては合宿までは何とかやり度いと云う欲求が強いが、客観的立場に立って考えてみて、例え一点でも指導者として欠ける処があるならば当然直ちに辞めるべきかも知れない。然し自分としてまだ事を決するには早いと思う。もう2、3日はよく掘り下げ感情の起伏も考慮に入れて熟考してみる必要がありそうである。

◎ 34年2月11日 晴

本日は自由練習の為、塚本、藤岡、楠田の3君のみ練習。3年生松本君参加

人数が少ない為、相当量練習が出来る。藤岡君もボツボツトスに対する適応性が出て来た様に思える。然し本当に悪いと云うトスが打てる様にならねば試合の時に苦しむのではないかと思う。塚本君は本日も随所に好プレーを見せ、その上達は驚く。あとは横へ来る早いボール、足元のボールのみであろう。これにとれずとも完全に手が出る様になれば出来上りと思われる。パスが出来ると同時にサーブの振りも鋭くなった事は一驚である。

矢張り上達の速度は練習量に比例するのだろう。特に高校生に於ては。そう云えば塚本君のみが12月から1月へかけての練習の皆勤だったのではなからうか。

結局あとの間の差が今になって現われて来たのではないかと思える。彼にも早ほうって置いても良からう。次は大久保、麦、の両君に早く面白くてたまらぬ状態になって貰う事だろう。

楠田君も本日は時々本当のトスが上って居た様である。自分自身でその差が分ってない故どうも困るが、矢張りこれは量で覚えてもらうより仕方があるまい。

唯ライトのクイックが加った場合にどうなるかが問題である。彼の欠点は矢張トスの位置でなくパスの位置でボールを取る処にありそうである。今後はこの点のみ注意して行く事とする。

明日より大久保君、麦君はレシーブを2度行なわせるか、又は間の暇をみてレシーブさせるかの何れかにする予定。今のまま放置すればどうも塚本君と差が開き過ぎる様に思う。こんな所から又変な気持ちを起されてもかなわぬ故。

稲葉君へ寄書の激励文を送る事にする。

◎ 34年2月13日 曇 暖かし

練習休み、麦君早く帰る。円藤、島田両君ラグビー試合の為参加遅れる。

昨晚部室に於て盗難事故あり、小生のジャンパー、藤岡君のセーターが盗まれた由。現役時代の腕時計2ケを含め3回目。ジャンパー位で良かったと思う。藤岡君のセーターは困った事であるが、先登の寄附が集ればアンダーシャツでも作り、何とかしなければ又冢の方が拙いのではないかと心配である。小生も腕時計の盗難の時は相当御袋に文句を云われた事も考え併される。今後は良く注意しなければなるまい。と云っても具体的な方策もなく、何か名案がないものか。

島田君は本日で大体復調した様子。あとは高いボールを押えられれば冬季練習としては完成と思う。楠田君とやった時もツボにさへトスが行けばうまく行って居た模様。楠田君も低目のボールはドンドン チェストで持って行かせれば良いのではないかと思える。それにしても矢張少しジャンプトスのタイミングが悪い。藤岡君は本日は少し腕が大振りになって居た様である。

大久保、麦、両君は矢張未だし。大久保君は何故パスが軽く出来ないのであろうか。一寸原因がつかめない。又指の腹にボールが当たることもその一因であろう。

本日の帰路での話では矢張塚本君は昼の休みの時間に相当パスをした模様。人より以上の努力。人より以上の練習量がなければ、人より早く上達する事は不可能である。小生は今迄昼の休みの時間のパスの件は知らなただけに何か胸をつかれるものがあった。然しその熱意と努力は大久保君にあって欲しいと思う。何かしら弱さを感じさせる彼の事。その様な練習からでも強くなって社会へ出て貰い度いと思う。

明日は恒例の予選会とかで1年生、2年生を午前、午後に分けて練習を行なわせる。この種学校行事も近頃は必ず出席せねばならぬらしく学校当局の方針の一端が疑える様にて嫌な気持ちがある。この種の機会を選んで練習を行なった我々の頃とは今昔の感がある。

又明後日曜日は何か試験で休みにするのかと思つて居た処、単なる休みであった事。又、2、3の人間は休みになる事すら知ってなかったらしい事を知り驚く。然もそれ故練習をし様と云う声が2年生ではなく、1年生より起り、それを否定せんとする気配が2年生側にあった事は何か現在の部の運営の拙さの原因がその様な所にあるのではないかと思われた。全然逆の現象ではないか。この様な事では総てがうまく行く筈がない。一応明後日は自由練習と云う事にする。

何か矢張気持ちの上に釈然としないものがある。結局自分はプレーヤーとしての器であり、指導者としての器ではないと云う事かも知れない。又現役諸君と小生との間に如何にしても縮まらないgapが残ると云う事は、小生をして仕事に専念せしめんと云う天の配剤かも知れぬ。

とにかく現状では小生の方が挫けて行きそうである。優勝をする為の苦しさは、経験あるが、

勝をさせる為の苦しさはそれ以上。何か今日は気の滅入る様な一日であった。

◎ 34年2月16日 曇

本日小林先輩より受信

拝復 結論を先に述べるなら

- ① 退部希望者についてはバレーと、勉学と両立しないというなら、その理由、動機がどうあるかと認めるのが、君の以前からの持論でなかったらうか？
- ② 監督として信任を問う必要があるだろうか？ 君自身で後輩のためを思って買って出たもの(と思ひながら)を、今更その必要あるとは思えない。君のバレーを後輩に教え、スポーツ精神をつちかわせようというバレー愛好精神とでも云うべきものが、君自身を監督として登校せしめたものと推察していた。だから、これは君自身のバレー及び、後輩への情熱の問題であり、我々がその責任を云々すべきものとは思えない。

文面による君の気持ちはよく推察出来ます。僕の場合には考えられなかった問題であり、又難しい問題とも云えるでしょう。僕の時には“バレーの虫”のような奴ばかりだから、その点では幸せだと云えるかも知れません。

しかし、スポーツと勉学と両立し得ない者には矢張り勉学をすすめるのは、君の以前からの持論だったと記憶している。たとえ志望校が一つ橋、東大でなかろうと彼ら自身商大入学に自信のもてない程の学力なら、君も退部することをすすめてくれ、とめることは出来ないのではないだろうか。君の云う様に、彼ら数名が同調した結果だとしても、すでに学力は劣り、バレーへの情熱も持たぬ者に、君自身コーチする気が起るだろうか？ 君とすれば他の者への影響をおそれるだろうが、やる気のある者なら、そういう場合でも恐らく残ると思います。

しかしこういう問題は監督の場にある者にとっては一番嫌な事ですね。

君が信任を問うなどという僕には解せない。君が好きでやったことではなかったのだろうか。前にも、僕は君に“教えること”だけに喜びを持ち、結果や、他の人の思わくなどは余り気にしない様にと云ったと思うが、僕自身の経験から云うなら、君らにガミガミ云いながら一緒にバレーをやることだけが面白かった。だから僕は、君らの球拾いもしたし、一緒にサーブも打った。勿論どうしたら1人1人を育てられるかと考えることは年中休みなかった。

君が毎日坂道を上り下りするの僕の場合と同じではなかったのか？ 君に、後輩と共にやろうというバレーへの情熱と登校する時間があるなら続けてやってほしい。今、君の外にやれる(教える)能力のある者があるだろうか。

穂州球談の特徴を持つという考え方、僕も同感です。正月前の便りを受け取った頃、立教大(野球)の四連覇の因は(長島、杉浦の抜けた昨年のこと)チーム・ワークであるという記事にひかれたのです。長嶋らのような傑出した選手がいなくて優勝し得たのは、ナイン各自が持てるすべてを出し、且、監督の適切な用兵がもたらしたものとありました。

僕は星陵チームの試合を未だ一度も見えていないので、具体的な意見を述べる事は出来ないのですが、

- ① 最もオーソドックスである手堅いフォーメーションは、前、中に1名ずつアタッカーを配し、その2人と(H・LとH・R)又は(H・RとH・L)にだけ、アタックの練習をさせ、他の者には、すべてチームの為に2人のアタッカーを盛り立ててもらおう。2人以外の者はサーブに力を入れる。というような方法。(幾人かに犠牲的精神をもってもらうことを納得させることが必要)
- ② これで一応の形がいたら、アタッカーをもう1人増すようにする。
- ③ 独特戦法は矢張りチームの内容を良く知り、見極めなければ考えられない。戦法或は、フォーメーションについては監督として君自身が一番チームを知っているのだからそれも定め、自信をもって、それをおしすすめるべきものだろう。(責任もかかるが)
- ④ こちらの新聞には、バレーボールに関する記事は少いというより、ないと云った方が良くらいだ。野球に関することは多いが、所謂一流と云われるチームの練習法は勉学を度外視しているから、我々の場合には殆んど参考以上のものにはならぬ。
- ⑤ ゴルフ場までのランニングを止めたそうだが、校庭を2,3周インターバル法で走らす必要がないだろうか。君の縄くぐりも結構だが、ランニングは運動選手の体の基礎をつくるものだから、づーと続けるのが上策かと思う。インターバル走法により、ダッシュ力もつけられる。
- ⑥ 週に1日は特別に個人別にしぼる時間をもりけ、個人差をなくすることが今の場合必要かと推察する。他の日は、もうチームプレーにそろそろ意を用いても良いかと思う。チームとしての独特の形をつくって行くために。
- ⑦ 難しいことだが、楽しませることも考えてやらねば、ついてこない場合が出来て、今度の場合のような事態がまた起るかも知れない。

正月に神戸に行けなかったのが、君が上京するかも知れぬと思ひ、あれこれ紙に抜き書きしていたのだが、今それが見つからぬ。それに事態が以前と変り、チームの戦力について、どの程度であるかわからぬので、考えをまとめ難い。それに矢張り不断について見てやり、注意しながらでないとは適確な意見も云えない。

極めて断片的な個条書で判読し難いと思うが、君への答えになれば幸いです。

矢張り直接にゆっくり話し合えぬと、互いの意を通じ難いものと思います。殊に我々2人の間のことでなく、後輩達のことであるから。

小林さんより種々適確な指示を頂き今後は之を旨として小生も努力をし様と思ふ。

唯現状では、小林さんの言う如く、又且て小生の考えた如く、やる者のみでやり通す。意志薄弱の人間は之を自然淘汰していくという方法は困難の如く感じる。現在員が8名である以上、これ以下に人間が減る事があればどうしても本年中に目的達成は困難になる。2年計画でも良い事は良いが、それではやはり首尾一貫しないし、2年生諸君に対しても余りに可哀想な気がする。小生は自分がどうしても現在員の気持を情熱を、今一步完全なものにし得ない事については深く自省して居る。然し時としては余りなまでの現在員の気持の頼りない事にどうしても如何に努力をしても駄目なのか?と疑問を抱く時がある。この時が最も辛い時である。これを無くする為にはどうしても自分自身を高める事より他はないだろう。

休み明けの練習からはより一層完全なチーム運営の方向へ持っていかなければならぬ。

小林さんの云う如く、難しいが楽しませる事も考えねばならぬ。以前より考えて居た事ではあるが、これはその方法が誠に難しい。一つ間違えば選手諸君の考え方をとんでもない方向へ向わせる結果になりかねないからである。小生としてはここ当分はとにかく現在員の気持の持ち方を確たるものにする事により力を尽さねばならないのかも知れぬ。一日も早くプレー面のみで役頭出来る様になり度いものである。

色々と考えてみるがBackをどうしても完全なものにしなければならぬ。3月中は特にこれに専念する事にする。どう考えてみても進歩の度合が現状のままでは間に合ひまい。聞く処に依れば姫路南、琴ヶ丘当りのバックは相当強力な様子である。これに勝つためには、どうしてもより以上強力なものにしなければならぬ。一応その為にも新入生のバック要員を探してみる必要がありそうである。

やらねばならぬ事のみが多く、それには余りにも時間が少な過ぎてどうにもならない。3月の休みと云う期間をフルに使用し度いと思うが、現役諸君が果して快く応じて呉れるかどうか。

本日は谷垣君からも、試験中とて矢張りボールがさわり度くてたまらない。あの本当にバレーを好きな者のみを感じる気持ちらしい。幸い22日には参加して呉れる様であるし、合宿も星陵の方さえ予定通りに行けば参加して貰えると思う。何とか星陵の方がうまく行かないものか。せめて部対学校、又練習場所の問題、費用の面、これ位までは小生の満足する状態に現役諸君でもっ

て行き、自発的に総てを解決して欲しいと思う。現在の如く総てが悩みの種になる状態では本当に投げ出しそうになる。

今後は小林さんの手紙でも見て元気をつける事とするか。

◎ 34年2月19日 雨

麦、西君練習休み。円藤君掃除の為遅れる。

人数の少ない現在森君の参加なし、又休む人間が多いととてもやり辛いし、又選手諸君にも気の毒な気がする。麦君は赤痢とか。全く悪い病にかかったものである。これは全快迄に或程度時間を要するし治っても直ぐには練習を開始出来ないのではないか。困った事である。

ルール改正にもかかわらずネットに表示帯をつけて居らず、又自分のPositionに加わる影響がどの様なものか、又それ故どの様な練習をすべきかも考えて居ない。研究心の無さと云うか不熱意と云うか誠に残念であった。直ちに注意を与えて置く。

人数が少い。練習時間が少ない。技量が完全でない。全てがないないづくしであるのにその上研究心もない、熱意もない。責任感もないと云うのではどうし様もない。

小生の心痛の余りふりしぼる注意を彼等は一体どう受取るのか。一場の説教として聞くのか?

そうでないなら直ちに明日からでもすっきり改善して欲しい。

現在のないないづくしの状態をカバー出来るのは、熱意と研究心のみではないか。麦君が休みの為前衛を1名入れてバックのコンプレッションを行なってみる。一応基礎練習の効果は出て来て居る様ではあるが、カバーの拙さ、スタミナの無さは相変わらずである。矢張り小林さんの云われる如くもっとランニングを行なわして置かねばならなかった。

冬季練習の一大ミスをおかしたようである。春の練習でもこれをカバーしなければならぬ。1時間半の練習時間は余りにも貴重過ぎ、どうもランニングに30分は痛やかに思われる。然し必要とあれば多少の犠牲は払ってもやらねばならぬ。少くとも2時間はたっぷり欲しいものである。

アタックの方は楠田君のトスが稍良好になって来た為大体うまく行って居た様である。今日は、2・3mのネットで行なわせてみるが心配して居た藤岡君よりも島田君の方が苦しんだようすでどうも解せない。矢張りフォームに難点がある故であろう。でなければ上背のある彼が苦しむのはおかしい。然し毎日高いネットで行なうて居れば、自然と良くなるのではないかと思える。又、円藤君には今少し高目のパスを持って行かせ度い。

又3月に入ればサーブ練習を徹底的に行なわせなければどうも相当苦しい事になりそうである。

それに麦君が病気、西君が駄目となれば、最大問題は人員と云う事ではないかと思う。又不時の病、怪我もある事であるし、現在員から12~3人に増やさねばならぬが非常に困難を感じる。尚4月に入ってからの練習試合の予定は、1,商大 2,姫路南とし、場合に依ってはO・Bとは別に朝日バレーに参加させれば良いのではないかと思える。一応3月の合宿迄に人員の目度がつけば早速予定を組み、申込んで置かねばなるまい。又商大の方は少くとも週1回の練習試合を行なえるべく秋田氏にも依頼し、現役の方にも話をつけて置く事とする。

日曜日の試合は人数の点で困難が予想されるが、何とかやりくりをつけて行ない度い。試合をしてネットインが大体一試合幾つ位あるか? 又、表示帯の距離短縮に依るポイントは何点位生じるか綿密な記録を取って見なければ具体的な練習法が出てこない。

合宿練習時間配分試案

合宿費見積、予算編成の早急実施

a.m. 7:00	起床	Kagome juice 200g入
7:15 ~ 8:15	ランニング及びサーブ	¥35.-
8:30	朝食	
10:00 ~ 12:45	個人練習	
1:00	昼食	
3:00 ~ 6:00	チームプレー練習	
6:30	夕食	
7:00 ~ 8:00	入浴、娯楽等	
9:00	meeting 及び夜食	
10:00	消燈	

注意事項

- 食生活に科学的カロリー計算を為す事。牛乳及びジュース等に依る糖分補給の完全。
- 入浴の実行(毎日)。5分前制度の採用。外出禁止。面会等は校内にて行なり事。
- 8時間の睡眠厳守。合宿以前の身体検査。夜具の完全性。T.V.聴視の禁止。
- 1年生の参加あれば、校歌等指導の事。managementの完全性。

これが私の時代の
最高成績

◎ 34年11月27日

甚だ苦しかったがなつかしくもある。1年余りの監督生活を今、止めるに当り、矢張り首尾一貫しない事は駄目でもあるし、ペンを取て取る事とする。(1部)

何とか国体優勝をととは思ったが果せず、市内リーグの優勝に終り、それも新人戦では再び二部転落の憂目を見させ乍ら種々な事情で辞任する事は甚だ申訳ないが、矢張りここ1年位は家庭生活に重点を置くべきであるし、又監督としては十分な責任を持ってないと思ひ敢て我儘を押し通す次才である。

本年のチームが優勝できなかった最大の原因は矢張りアタックの貧弱さにあったと思う。オ二はサーブ力の弱さである。

今後は矢張りアタックはワンマン的な人間を養成する事が重要な課題となると思える。

次にサーブは矢張り確率を良くする事がオ一であるが、強さも要求されるのではないかと思う。そしてもし強く打てない人間には、矢張りフローターが有効であると思われ、早目にこれに切り替えなければならない。

バックは矢張り冬の練習で相当伸びるもの故、冬の間は気長に基本を教え、3月以降は極力実践に役立つバックに養成する事が肝要と思われる。

監督して最も重要な事は絶対にあせりの心を起してはいけないと云う事と思う。1年なら1年10ヶ月なら10ヶ月先の目標を決めたなれば、それに向ってひたすら進めば良いのであって、途中であせっては総てが台無しになると云う事である。

如何に下手な様な人間でも、伸びる時期が来れば必ず伸びるのである故、その時期が多少遅くともあせる事なく基本に徹したプレーをさせる様に仕向けねばならないと思う。

次は矢張り練習が面白いと云う様に仕向ける事で、これは最も困難ではあるが、又最も重要な事である。

とにかく完全に崩壊しかかっていた星陵バレーが又多少昔の面影を取り戻しつつあるのである故何とか来年か再来年には優勝をさせてやって欲しいと思う。

然して、次期監督に思う存分活躍して頂き度いと思う。

又現在出来つつある先輩、後輩の密接なつながり、礼儀を重んじた紳士としてのSportsmanが出来上ればと思う。

↓
一番教えられ、
社会に於ても
誇りに思ひ、

編 集 後 記

記念誌を発行しようという総会決議があって以来、すでに1年余りを経過したにも拘らず、不慣れとは言え、お恥しい次才です。拙速という言葉がありますが、拙にして遅 誠に申し訳ありません。五十嵐先生はじめ早々に御寄稿いただいた方々には御詫びの仕様もありません。

アンケートにしても、回答を下してから今日までに転居、転勤、結婚、お目出度など最新の資料とは言えなくなったものもあり、勝手ながら、編集子の方で出来るところは正させていただきました。

それにしても、兎にも角にも記念誌が出来たことは、御寄稿いただいた方々をはじめとして、会員各位の御援助の賜であり、星陵クラブの歴史の上で、1エポックを為すものと思います。これも星陵バレー部と星陵クラブの発展のため御協力下さる熱意の表われと信じ意を強くすると共に責任の重大さを痛感致しております。願わくば各位の一層の御支援と御鞭撻をお願い申し上げます。

(武 谷 記)

— 記 念 誌 — 15周年

昭和42年7月20日印刷発行

発行所 星 陵 ク ラ ブ
(星陵高校バレーボール部OB)

発行責任者 武 谷 和 夫
編集 神戸市垂水区塩屋町滝ヶ谷29-94

印刷所 ア ー ト 印 刷

神戸市葺合区大日通3丁目1番地
電話 (神戸) (078) 22-7692



所有者
12回生
岡藤 清